

アミノレバン®EN 専用フレーバーの矯臭効果に関する検討

○原口 珠実<sup>1</sup>, 吉田 都<sup>1</sup>, 櫛川 舞<sup>1</sup>, 内田 享弘<sup>1</sup>(<sup>1</sup>武庫川女大薬)

【目的】肝不全栄養剤のアミノレバン®ENは、水または温湯に溶解または懸濁して服用することが添付文書に記載してあるが、服用性の悪さがコンプライアンスを低下させている。本研究室では専用フレーバーによるアミノレバン®ENの苦味抑制効果について報告しており、特に酸味の強いフレーバーを添加し冷やして服用することで、有意な苦味抑制効果が得られることを明らかとした。一方、アミノレバン®ENの服用性の悪い原因として、においも好ましくないことが挙げられる。そこで本研究では、アミノレバン®EN専用フレーバーによる矯臭効果について、においセンサと官能試験を用いて評価した。

【実験方法】においセンサを用いてアミノレバン®ENと6種類のフレーバーをそれぞれ単独で、またはアミノレバン®ENとフレーバーを混合して、主成分分析により、においを評価した。官能試験では、パネラーはアミノレバン®ENと6種類のフレーバーを水に溶かしたものをそれぞれを単独で、またはアミノレバン®ENとフレーバーを混合して、それぞれのにおいの強さ、嗜好性について評価した。

【結果・結論】においセンサによる主成分分析の結果、果実系のフレーバーは、単独でアミノレバン®ENと離れた位置を示し、アミノレバン®ENと混合してにおいをマスクングする効果が高かった。官能試験の結果、果実系のフレーバーは、甘味・酸味を連想させ、他のフレーバーと比較して強くにおいを感じさせた。この官能試験の結果は、においセンサの結果とよく相関していた。以上より、特に果実系のフレーバーは、アミノレバン®ENの服用感を向上させるための強い矯臭効果をもつことを明らかとした。また同時に、センサを用いて、においのマスクング効果を評価することが可能であることを示した。